

2019年度 3教科B方式 世界史**(I)****【解答例】**

- 問1 (ア) マハーバーラタ (イ) ラーマーヤナ (順不同) 問2 玄奘
 問3 ⑤ 問4 ③ 問5 ③ 問6 ② 問7 ① 問8 ⑥
 問9 ④ 問10 ③ 問11 ⑤ 問12 ⑤

【講評】

(I) は古代のインドに関する問題です。問1はよくできていました。問2は異なる時期に、同じナーランダール僧院に行った義浄とする誤答が散見されました。問3は正答率が低く、④を選んだ人が多かったです。パータリプトラがインダス川流域でないことを思い出せば、誤答とすぐわかりますので、地図をよく見ておくといよいでしょう。問4、問5、問12の正答率は8割を超えていました。問6、問7、問9、問11も半分以上の人が正解していました。問8は組み合わせ問題だったため、難しかったようです。問10も正答率が低かったです。

(II)**【解答例】**

- 問1 ③ 問2-1 ②、④ (順不同) 問2-2 ① 問3-1 ② 問3-2 ④
 問4-1 ②、③ (順不同) 問4-2 ② 問5-1 ③ 問5-2 ④ 問6 ①

【講評】

中世から近世はじめまでのヨーロッパに関する出題ですが、正答率が8割を超えた設問が2つに対し、5割を下回った設問が4つあって、全体にあまり良い出来とは言えませんでした。もっとも正答が少なかったのは、文化史的な感覚が問われる問3-1でした。ヴァロワ朝はルネサンスや宗教改革が起こった時代のフランスを支配した王朝ですから、それに当てはまらない選択肢は、中世の文化を代表する知識人、トマス＝アキナスについての記述であるということになります。問5-2、問6の正答率もややふるいませんでしたが、これは少し難しかったかもしれません。

(III)**【解答例】**

- A 問1 ④ 問2 ① 問3 ③ 問4 ② 問5 ①
 B 問6 ① 問7 ③ 問8 ④ 問9 ③ C 問10 ③ 問11 ② 問12 ①
 問13 1908年にオーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合すると、ロシアを後ろ盾として領土拡大をめざしていたセルビアでは反オーストリア感情が高まった。 問14 ④

【講評】

ロシア帝国の発祥から崩壊までを、周辺諸国の動向も視野に入れながらたどる問題です。Aの問1から問4までの正答率は比較的良好でしたが、問5のみ4割弱(約35%)と低かったのは意外でした。B、Cでも同様の傾向が見られ、基本的な問題の正答率は非常に高かったのですが、問9、問12、問14のようによくわしい知識が問われる問題になると4割程度でした。問13の記述式問題は、最初からあきらめてしまったのか、空欄の解答が多かったのは残念でした。

(IV)**【解答例】**

- 問1 ④ 問2 ② 問3 ③ 問4 ⑤
 問5 国債制度によって国家が債務を負うことを可能にし、さらにイングランド銀行が国債を引き受け、支払いを保証することによって、国債の信用を確保し、多額の資金を集めることに成功した。
 問6 ② 問7 ④ 問8 ②、④ (順不同) 問9 ② 問10 ③
 問11 ④ 問12 ③、⑤ (順不同)

【講評】

標準的な設問の割には、正答率の低さが目立ちました。問1の「大ブリテン王国」の成立については多くの教科書が触れていますが、4割弱(約35%)の正解にとどまりました。問4は難しそうですが、著名な戦争の年代を理解していれば間違えません。問5では、「国債」「イングランド銀行」という用語の意味を理解していない解答が目立ちました。問6では②と④は矛盾しているので、どちらかが誤りであることは明白です。問12も正答率が低かったのですが、「人民憲章」が参政権運動から生まれてきたことを理解していれば、正解に到達できます。